

今 1年生は一人一台タブレット型PC・iPadを持って授業や探究学習に臨んでいます。が、iPhone・iPadなどを世に送り出したアップル社の創業者で、CEO(最高経営責任者)であったスティーブ・ジョブズのことを、知っている人も多いと思います。彼の言葉として有名なものが“Stay hungry. Stay foolish.”物事に対して貪欲になり、夢中になつて取り組め”というような意味です。しかし、これは彼自身の言葉ではなく、雑誌に書かれていた言葉でした。これに彼がとても感銘を受けたのです。まさに自分の生き方を示してくれているのでしよう。実は、本校で使つてゐる英語の教科書『CROWN』に、ジョブズ氏がスタンフォード大学の卒業式に招かれた時の講義を紹介しています。そのうちの1つを紹介します。それは、“connecting the dots”です。“点と点を結ぶ”という意味になります。

彼は、経済的な理由もあって大学を辞めていたのですが面白そうに思えたカリグラフィーの授業に潜り込みました。力りグラフィーは、言つてみれば文字のデザインです。皆さんもパソコンに何種類ものフォントがあるのを知つてゐるでしよう。彼としては、当時、これが何かの役に立つとは考えもしなかつたのですが10年後、最初のコンピュータ기를設計していた時、カリグラフィーの知識が急に蘇つてき、その知識のすべてを引き込みました。そして、美しいフォントを持つ最初のコンピューターが誕生したのです。もし彼があの講義に出ていなか

点と点を結ぶ

そのスピーチでは、彼が生き
てきた経験から3つの話をし
ていました。

月全校朝礼 学校長講話（要旨）

学 校 長 青木 一男

かつたらもし夢中で学んで
いなかつたら、コンピュータ
ーには多様なフォントや字間
調整機能も入っていなかつた
のです。

大きな毎日でした
そうして約2か月が経つた
時のこと、私に記事を書く仕事が来ました。それなりに自信はありました。ところが、
ボノコヨウジこちら、そ

や文法や誤字脱字だけではなく、そこでも見なくてはいけません。現在の校正よりも何倍も神経と労力を使う作業でした。ただし、ここでも大学時代にアレファーバン、一文字ごとに

「躍進」といふアルハム生方の文章を載せた『太平台春秋』という冊子など、学習の発行物の仕事が必ず私に回つてきましたが、やり甲斐を感じました。一方で、この仕事は、

校報

國學院大學
栃木中学高等学校
〒328-8588
栃木市平井町608
☎(028)225511
校舎編集部

〈7月の行事予定〉

- 1～3日・5日 期末試験(高)
- 1～3日 期末試験(中)
- 5日 美化の日(中・高)
- 8日 1～2年ペナセッセ総合学力テスト
- 3年ペナセッセ記述模試(高)
- 10日 第1回入試説明会(中)
- 13日 統成判定会(中・高)
- 15～17日 三面面談(中・高)
- 16日 終業式(中・高)
- 17日 壮行式「國大・國柄短大説明会(高)
- 19～22日 1・2年前期夏期講習(中)
- 19～23日 前期夏期講習(高・中・3)
- 24日 第1回Come on in国学院(中・高)
- 26～28日 サマーセッション(高・中)
- 26～29日 中期夏期講習(中・高NSTAG)
- 31日 第2回Come on in国学院(中・高)

す。毎月学校で発行している「校報」があります。その編集の仕事に就いた時の話です。その時の編集長がとても厳しい人で、原稿の締め切り前の一週間は、皆で集まり、一つの記事や写真、レイアウトについて、編集長が納得するまでやり直し、その編集作業は、終了が夜遅くなることもたびたびありました。校正も少なくとも5回はやりました。それも加えると月に半分くらいは遅くまでこの「校報」の仕事をしていました。大学時代をしていたのです。大学時代、英字新聞部にいて、こういう状況は慣れていきました。しかし、教師としてこの学校に勤めているのであり、授業が当然一番大切なわけです。そのため朝の4時くらいに起きては、少なくとも一日2時間は教材研究をし、授業案を練

ましてや新人でもあるのになぜそんな言い方をするのだ」と反発し、大げんかになってしまったのです。それでも何とかようやく收まり、「帰ろう」となったのが夜中でした。後になつて自分で気づきました。なぜ、自分の記事がだめだったのか。まだ若く、なまじ新聞部。ここからはずだ手新闻社や出版社に進む人たちが先輩や同期に数多くいて、その中でやつてきたという驕つた気持ちもあったのでしょうか。上から目線で書かれた鼻にうくような文草だつたのです。取りあえず、今やれることをしつかりやろうと心に誓いました。そこで、まずは校正に全力で取り組みました。現在のようにコンピューターのワープロ機能や編集機能などはなく、当時は手書きの原稿

持ち帰って何度も見直しました。誰よりも赤ペンでগেলা刷りを真っ赤にしていました。書けという命令が下りました。今度はどうかというと、一語も直されることなく、「校報に載つたのです。考えてみるほど、校正の作業で何度も文章を読み返しているうちに、その「校報」の文章が自分の心中に染みついていました。当時の校長であった佐々木周二先生の式辞や講話を、繰り返し真剣に読んでいるうちに、それが頭に入っていた。また、行事の記事を読んでいると、その行事の意味を考えていた。そういうことであつたと思います。そうして自然に本校の教育についても学んでいたのです。

500枚以上の旅行記などの作文を書いたことも、大学時代に英字新聞部に所属して、いたこともつながっていたのです。ジョブズ氏は言つています。「将来をあらかじめ目指して、点と点をつなぎ合わせることなどできない。できることは後からつなぎ合わせることである。だから、我々は据えて、点と点をつなぎ合わせることなどできない。できることは後からつなぎ合わせることである。だから、我々は今やつていることが、いずれ人生のどこかでつながつて牢獄を結ぶだろうと信じるしかないと」。

将来につながる

は、成績通知表や調査書、推薦書を書く時、さらに学校の書類を点検しなければならぬ立場になつた時、とても心立ちました。その後、佐木周二先生の言葉と文章をまとめた『私学の春秋』を始め、「躍進」というアルバム、生方の文章を載せた『太平春秋』という冊子など、学校の発行物の仕事が必ず私に回つてきましたが、やり甲斐を感じます。

生徒総会

1年情報モラル研修

令和3年度 父母会



全校生徒に呼びかける生徒会長の市川さん

会予算報告が行われた。その後、生徒会長の市川さん（T3年）より生徒会活動についての説明があつた。説明内容は今までの活動報告、毎月8日に通学指導、挨拶運動をしている「8」の日合同運動に加えて、「8」の日は文化祭と体育祭についてである。昨年度は中止となつてしまつたが、今年度は何らかの形で開催を検討しているとのことであった。3年生にとっては最後の、1、2年生にとっては初めての文化祭、体育祭が開催されることを期待する。

6月1日（火）、全校朝礼の後に生徒総会が開かれた。生徒会とは、生徒たちが「自主的に」組織である。昨年度の決算報告および、今年度の生徒

は新型コロナウイルス感染症対策として、各教室にてNTTドコモ製作の動画を視聴する形式となつた。本校生徒の中にも多くの者が所持しているスマートフォンは、今日の我々の生活において無くてはならないものである。とても便利なツールではあるが、使い方次第ではとても大きな危険も伴う。ツイッターやLINE等のSNSでは、自分が意図せず他人の人権を侵害するケースや、知らずのうちに犯罪に巻き込まれてしまうケースも多いため、また、SNS等によ

て発生するトラブルだけでなく、YOUTube等の動画コンテンツやゲームの長時間利用といった、スマートフォンに依存した生活を送るリスクも存在する。今回のDVD視聴を通じて、生徒たちは適切なSNSの利用の仕方やスマートフォンについての理解を深めることができただろう。



樂器の正しい使い方を学ぶ

教務日誌抄

高校

んでいきたいと思います。

ム委員として、みんなの後ろで支えていくことでクラスをまとめたいと思っていきます。そしてみんな笑顔で

卒業したいと思つています。

張講義

19	18	16	11
日(金)	日(水)	日(金)	日(木)
19 日(土)	3年 調査	第1回漢字模試	3年 第1回校内模試
2・3年 大学出	3年 小論文模試	G T E C	3年 希望
			3年

5日(土) 美化の日
3年ベネッセ
共通テスト模試
9日(水)・10日(木)
3年第1回校内模試
第1回漢字検定

A medium shot of a man in a dark suit and a white face mask handing a white envelope or document to a woman in a white blouse. They are in a room with large windows and other people seated at tables in the background.

鈴木誠人前会長に感謝状を贈る
船田徳子新会長

う挨拶をいただいた後、新
父母会への引き継ぎおよび

5月15日(土)、第一会議室において令和3年度父

新父母会会長の船田徳子氏より鈴木誠人氏に感謝状が贈られると、会場は収集した新旧役員の温か

●各コースは、	
次の記号で表示されます。	
中高一貫コース	N
特別選抜Sコース	S
特別選抜コース	T
選抜コース	A
グローバルコース	G
文理コース	B

関東大会結果報告

前半14分、ラインアウト
モールからプロップ齋藤健
太選手(B3年)が押し込んだ

揮した白石和輝主将（B3年）は「組織的なディフェンスで50分間守り通すことができた。夏の菅平合宿に向けて一人ひとりが強くなり、チームとしてさらに向上したい」と話した。



関東1都7県の上位29校
か集い、7ブロックに分かれて戦うが、本校は最上位のAブロックに選出され熱戦を繰り広げた。

点をあげた 徒半 焦げを
見せる流經大柏に対し、11
分にフランカー長谷川太二
選手（B3年）がトライを奪
い、2試合続けての完封勝
利を収めた。

3位入賞を果たした。藤沼主将は、「全員の力があつたからこそ勝つことができました」と喜びを語った。

引き離されるも第2回は25対27と接戦を繰りたが0対2で敗退した
弓道
予選敗退となつた
陸上競技部

弓道
予選敗退となつた。
陸上競技部
全種目、上位への進出は
ならなかつた。

決勝ラウンドは4チームのトーナメント方式で行われ、1回戦はファンタジック木下栄木U-14と戦い16対5で圧勝した。決勝戦は矢板中央高校と対戦し1対5で敗退した。練習メニューを

柔道部男子団体ベスト8



教育実習

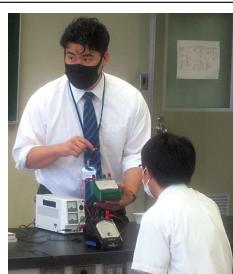
男子は日川高校（山梨県）と対戦し22対26で惜敗した。女子は浦和実業高校（埼玉県）と対戦し7対34で初戦敗退となつた。

「学ぶことがたくさんあります。あつという間の3週間の貴重な経験を糧として、これからも活躍に期待します。」

ハンドボール

栃木県大会2位
フットサル愛好会

自ら若手努力した結果、会
部3年目で、初出場なが
結果を残すことができた。



深井教生による豆電球の瞬間抵抗値を求める実習

校内競技大会

五月晴れのもと 笑顔あふれる

試合結果

	1年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
優勝	B2A	B4	B1A	B1	B4A	B5
準優勝	A1	B2	A2	B5	B6A	G1
3位	B1A	B1	A1A	A2	A2A	B6
	B3A	A2B	B6A	B6	B6B	A2A



5月26日(水)、新型コロナウイルス感染症の影響で、校内競技大会が当初の予定の一日前を一日に短縮して実施された。

生徒たちはホームルームごとにデザインしたクラスTシャツを作成。ホームーム一丸となって試合に臨んだ。

今大会ではB2年1組がアベック優勝。左記には試合結果一覧を、下記には優勝チームの感想を掲載する。

B2の1A 平井 悠馬
皆の気持ちが一つになり優勝することができました。勝因として、個々の練習や体育時の取り組みがあります。Bチームと競い合いチーム作りをしました。当日は全員で盛り上がりつて応援すると同時に次の試合の戦略を練りました。

果敢に攻める



皆で助け合った結果、優勝することができました。来年もV2アベック優勝を狙います。

2年
男子 ソフトボール(野球場)
女子 バレーボール(体育館第一アリーナ)



担任を初優勝に導いたB4組

B3の5 大塚 優希
高校生活最後の一年とい
うことで校内競技大会に
絶対に優勝するという気
持ちで臨みました。皆が必
死にボールを繋ぎ、得点で
きた時の皆のキラキラし
たあの笑顔は一生の宝物で
す。

たくさんの人の支えや
応援のおかげで、最高の思
い出をつくれたことに感謝
の気持ちでいっぱいです。

B3の4A 櫻井 力 担任の氏家先生を初めての優勝に導こうとクラスで目標を決めました。練習を行い、心を一つにして臨みました。苦戦したのは、B5組です。強い選手が在籍するクラスで、危ない場面がありました。決勝戦は楽しみながらプレーできたことが優勝に繋がったと感じています。



B 5組のブロックが相手の攻撃を阻む

バレーボール部員3名のため、規定で試合は女子4名での参加になりました。当日、刀川先生と教育実習の先生にご協力いただき、どうにか勝ち進むことができました。今回の優勝は皆で勝ち取ったものだと思っています。人数が少なくて最後まで諦めない気持ちを今後の学習にも繋げていきたいです。最後まで



後まで楽しく試合をすることができ、良い思い出となりました。

B1の4 伊藤 天翔

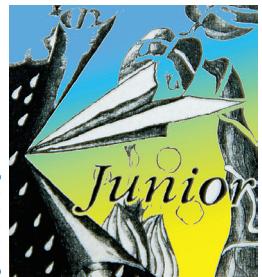


力強く突破を図る

要因は、「チーム」であることを皆が意識し、点を取つたら皆で喜び、そして励まし合い、経験者が教え、敗を恐れずにボールに向かつたことがあります。また、気持ちを一つにしました。ともその一つです。「楽しみながら勝つ」をスローガンに、笑顔と声かけが一度もなくなることなく戦い抜きました。このクラスで優勝できましたことをとても嬉しく思います。

大いなる自然に学ぶ

赤城山
筑波山
奥日光



- 5月28日(金)、自然体験学習が行われた。新型コロナウイルス感染症予防のため、宿泊の予定を変更し、日帰りでの実施となった。当日は天候にも恵まれ、各学年ともに大変充実した一日となった。



岩場を登っていく生徒たち

2
年
生

の、切込湖・刈込湖、戦場ヶ原でハイキングを行つた。当日は好天に恵まれた上、現地では新緑の季節を迎えていたので、絶好のハイキング日和となつた。コースはアップダウンを繰り返すため大変であったが、奥日光の自然の美しさや景色の素晴らしさを感じられたため、10キロにも及ぶコースにもかかわらず、全員が踏破することができた。

自然の素晴らしさを満喫できることはもちろんのこと、生徒同士が励まし合つたり、男子生徒が女子

3
年
生



楽しくみんなで歩く

（生徒感想）
自然体験学習を通して、とても良い思い出ができたと同時に、自然の過酷さも学びました。非日常のこの日は、特別な一日になつた。た生徒たちは、素晴らしい景色に感嘆の声を挙げていった。下りは「ガマ石」など奇岩・怪石が点在する「おたつ石コース」を下山。事前学習で調べた由来や言い伝えを楽しんだ。途中苦しい場面があつても、全員で切り替わるよう二三人一組のバディ制を取り入れた。生徒たちは常にバディと声を掛け合い、助け合いながら一日中歩き続け、全員が無事に全行程を終えることができた。

と思います。いつもは感じられない清々しい空氣や、登山している私たちを応援するかのような小鳥のさえずり。自然の魅力を満喫できました。
(1組 石川 聖羅)
転んだ時には友だちが手を貸してくれました。また友だちが転んだ時には僕から手を貸しました。このように、助け合いながら登山しました。今まで、こんな大人數で山に登ったことがなかつたので、協力することの大切さや樂しさを知ることができました。山顶で食べたお弁当も、景色が綺麗で、いつもより美味しく感じられました。(2組 大類 爽太)

私は、自然体験学習に行く前から山の気温の変化と植物の分布を意識して登山をしました。地理の授業で、先生が「山の標高に応じて植物の分布が変わる」とおっしゃいました。大笹などが一気になくなるとおっしゃつたので、そこに着目して歩いていたいきなり大笹がなくなったのです。つまり、山の標高に応じた植物の分布の変化を自分の目で見たのです。植物は、とても

第1学年は赤城山の地蔵岳登山を中心としたコースである。事前に、地理や理科の授業で植物の生態や地層など説明が行われた。出発式では、学校長からの挨拶や生徒代表による意気込みを確認した。地蔵岳に登り始めると慣れなない登山に苦戦する生徒もいたが、お互いに声を掛け合い、植物や岩の色などを確認しながら全員無事に登頂。山頂では、景色の良さに生徒たちも感動していた。皆でとつた昼食も格別なものであったようだ。自然の素晴しさや厳しさを体験すること、仲間と協力し合いの強さという目標は、概ね達成できた。

1
年
生

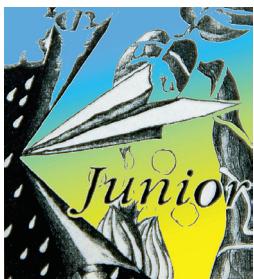


山頂での集合写真

奥が深いと思いました。
(1組 梶田 悠斗)
本格的な山登りは私にとって初めてのことでした。司会をすることになった出発式を成功させることができるか、人生初の本格的な山登りを無事に終えることができるか、とても不安でした。でも、結果的にはクラスメイトや先生方の助けによりすべてのことが予定通りに進みました。

今回の自然体験学習により私は、「協力すること」の大切さを深く悟りました。初めてのことでも誰かに助けを求めたり協力し合うことで、成功させることができたり、プラスの方へ進むことができるということを改めて感じました。

自然体験学習で収穫できた協力する心を、今後の学校生活や行事に活かしていきたいと思います。



6月全校朝礼 学校長講話(要旨)

やらなければならぬことの中に喜びや発見はある

青木一男学校長

青木一男学校長は、まず、自然体験学習を振り返り、「久しぶりに1年生と登山をし、正直、不安はあつたが、登り切れてとても嬉しかったし、いつの間にか『また来てみようかな』など、登る前とはまったく変わった気持ちになつていた」と感想を述べた。続けて自身の体験を通して考えたことを次のように語った。

「私は以前、高齢の母に変わり、1時間ほど早起きして犬と散歩する日々を送つたことがあります。正直、嫌々始めた散歩でしたが、1年経つたくらいでようか、不思議ときちんと同じ時間に目覚め、大雨でもいかない気持ちが收まらない自分がいたのです。散歩が1日を始めるためのル

ーは、90%くらいはそうしたことの連続です。しかし、少しだけ我慢して続けたり、心のあり方を変えることで、90%くらいはそうしたことはよくあることです。人が毎日暮らし生きていく中で、90%くらいはそうしたことは、よくあることです。人

が毎日暮らし生きていく中

で、90%くらいはそうした

ことが起きたり、思つてもみな

かつたことを経験できたり

することがあるのです」。

また、ある先生が中学時代、ピアノを弾いたことがない自分もいたのです。散歩が1日を始めるためのル

ーは、90%くらいはそうしたことは、よくあることです。人

が毎日暮らし生きていく中

で、90%くらいはそうした

ことが起きたり、思つてもみな

かつたことを経験できたり

することがあるのです」。

父母会総会

5月15日(土)図書館
大会議室において、令和3年度父母会総会が行なわれた。例年は授業参観、クラス懇談会、各地区ごとの懇談会の後、全保護者を対象に行われる総会であるが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新旧本部役員地区委員、中学校

(英語)と本学園短期大学の今泉縁教生(養護)が教壇に立つた。二人とも大変真面目に、落ち着いた態度で実習に臨み、生徒たちとも積極的にコミュニケーションを取りうと、授業だけではなく、朝や放課後も教室へ

（井上 和教生）

（今泉教生）

（手洗い指導をする今泉教生）

（男子団体 優勝 田中柔伎3の2）

（女子団体 準優勝 吉田希音3の2）

（男子個人 優勝 山口大颶(2の1)）

（女子個人 優勝 鈴木榮人(3の1)）

（準優勝 小林知寛(3の1)）

（準優勝 上岡大輝(2の1)）

（準優勝 大野翔平(3の2)）

（優勝 田中柔伎3の2）

（優勝 清水進也(3の1)）

（優勝 上野航瑠(3の1)）

（記録 11秒51）

（陸上部）

（陸上部）